

为 了 明 天

ウエイ ラ ミン テイエ

—— 明日のために ——

子どもたちに希望を 人々に友情を

特定非営利活動法人 宋慶齡基金会 日中共同プロジェクト委員会

<http://www.sokeirei.org>

新たな文化交流の頁が開かれた

“孫中山と梅屋庄吉文物史料展示会”を後援をして

代表理事 諏訪きぬ

上海市人民对外友好協会の招聘により、上海孫中山故居紀念館における“孫中山と梅屋庄吉文物史料展示会”開幕式に参加するため、11月10日から13日の日程で、当会代表団が上海を訪問しました。この訪中は、今夏同展示の準備・取材（梅屋庄吉子孫の小坂家）のため上海市人民对外友好協会（王加新日本処長ら2名）と孫中山紀念館（孫娟娟館長ら3名）代表団が来日した折、当会が招聘し、取材に協力したことに対応するものでした。

開会式は、11月11日10時から、孫中山紀念館前庭にある孫文の立派な坐像の前で行われました。式には梅屋庄吉の曾孫に当たる小坂文乃さんが参加され、日中友好の歴史に、大きな花を添える形となりました。紀念館孫娟娟館長の司会で始まった開会式の冒頭に挨拶にたった上海市汪小澍人民对外友好協会常務副会長は、中国の民主革命の成就を、孫文亡き後も生涯をかけて支援した梅屋庄吉の業績を中国人民に広く伝える“初めての文物史料展示会”が、上海で開催される意義を強調されました。

次いで小坂文乃松本樓常務取締役は、「孫文に対して終生熱い友情を抱き、その革命の信念を理解し、資産を尽くして革命運動を応援した梅屋庄吉の子孫であることを誇りに思う」「このような形で日中友好の歴史が紹介されることで、日中友好の新しい

頁が開かれることを期待する」と明快な口調で挨拶されました。他に崔天凱駐日大使のメッセージが代読され、横井裕上海総領事等数名が挨拶され、この文物史料展が今後の日中友好に与えるであろう影響の大きさについて触れられていました。小春日和の天空からプラタナスの黄葉が、時折、ハラリハラリと舞落ちて、往時を偲ぶ式典に風情を添えていました。

今回、この文物史料展示会を後援させていただくことで、本会の活動にも新たな頁が開かれるのではないかと思います。



翌12日午前には、孫文生誕142周年記念行事に参加しました。午後は上海市基礎教育委員会の葉雁虹主任の案内で上海市立五原路幼稚園を視察、上海市对外服务有限公司李蓓君さんの通訳で2時間に亘って意見交換を行いました。

同日夕刻から夜にかけては、カウンターパートの上海宋慶齡基金会・中国福利会との会合でした。まず、日本国内の多くの皆様方からご支援をいただきました「四川大地震被災児童救援プロジェクト」について、当会と上海宋慶齡基金会艾柏英副主席との間でプロジェクトの内容（「移動少年宮」の車輛・設備/150万円と図書セット/15万円の寄贈）と実施についての覚書を日中両文で交換・調印しました。引続き、艾副主席に寄贈目録を贈呈し、その後の夕食会では上海宋慶齡基金会や上海市人民对外友好協会の方々と、「移動少

年宮」の活動内容や今後の文化交流をめぐって意見を交わし合いました。

皆様にご支援いただいた四川大地震救援プロジェクトの「移動少年宮」は、まもなく四川省の被災地都江堰を中心に活躍し、子どもたちを励ましてくれることでしょう。

13日は中国福利会が新設した養老院を見学、帰路につきました。

今後JCCが文化交流活動を展開するための足がかりを得た旅でもあったと実感しています。送迎等を含め手厚いおもてなしを下さった王加新氏、奚家驥氏、周国榮氏に心よりお礼申し上げます。

第12回 JCC 中国講座

2008年5月24日



世界との距離はますます近くなる

北京五輪後の中国

東洋学園大学教授 朱 建榮さん

北京五輪の年は終わった。あらためてその影響を検証すると、中国と世界との距離が一気に縮まったことが強く感じられる。

台湾の発行部数が最も多い新聞「中国時報」は、五輪開催で「中国と国際主流社会との距離を一気に10年縮めた」と閉幕式翌日の論説で評した。中国の新聞も、「北京五輪の最大の成果の一つは、中国と外部世界との交流・相互理解およびコミュニケーションを、これまでにない新しい段階に押し上げたこと」だとし、中国自身はこれを通じて「一段と深く世界を理解し、国際的な物差しをもって自己調整を行い、他の国の長所をより一層、十分に認識して自分の発展の鏡とすることができた」と述べた(08年8月15日付「人民日報」論評)。

先進国の基準からすれば、北京五輪は満点のものではないかもしれない。ただ、それを通じて中国が変わったものが多く、更にその変化が加速している点も否めない。

五輪開始後、中国の民衆は最初、中国人選手の活躍に熱狂的な拍手を送っていたが、重量挙げ男子105キロ超級で優勝したドイツ人選手が亡き妻の遺影を手を持って表彰台上を見たのを見て、「金メダルは全てではない」ことを学び、会場ではその感動を真摯に表す嵐のような拍手が鳴りやまなかった。中国の新聞にもその間、自国の問題点を指摘し、批判する記事・評論が多く見られた。

公平に言って、今回の五輪では特に北京の各会場では日本選手団に対して概ね好意的だった。開幕式に入場した日本選手団に対して、大きな拍手

が湧き起こった。小柄の北島康介選手が長身の欧米選手に打ち勝って2枚の水泳金メダルを取った時、中国の各新聞とも、写真つきで大きく報じた。男子マラソンで日本人選手が遅れて最後に「鳥の巣」メインスタジアムに入った時、観客席からは全員立ち上がってその敢闘精神に惜しまない拍手を送った。

五輪で映りだされた変化は背景的には、ここ30年の鄧小平路線がもたらした経済発展、国民生活の改善をベースにしたものと言える。五輪の会場内外に100万人以上のボランティアが活躍した。それこそ生活がある程度豊かになり、他人に奉仕する意識と余裕が出来た証明だ。

五輪後の中国に関して特に二つの動きを見守っている。一つは報道の自由が拡大していること。五輪開催中に開放したインターネットでの外国主要メディアへのアクセス(BBC、VOAの中文サイトを含めて)はその後も、ずっと開放されている。11月以降、新聞、テレビによる国内問題へのスクープ・批判も増えている。いったん開かれた窓はもはや閉ざすことは出来なくなった。

もう一つは世界金融危機への対応だ。胡錦濤主席はワシントンで開かれたG20(主要国)会議に自ら出席し、協力する姿勢を見せた。

今後、世界に影響力ある国として、また唯一の社会主義大国として中国はもっと厳しい目で見られていくだろう。それに対して、責任ある大国の意識を強くして、環境・食品安全・貧富の格差・少数民族などの国内諸問題にもっと真剣に取り組み、国際政治と経済システムの改革にも積極的なメッセージを出すよう期待したい。

文化大革命を生き抜いた 父の愛とヴァイオリンと私

ヴァイオリニスト・音楽博士 劉薇さん

劉薇さんは、1963年生まれ。桐朋学園大学・東京芸術大学大学院に留学し、来日22年目になる。今年、NHKホールで行われた北京オリンピック応援コンサートにソリストとして参加するなど、活躍中の中国人ヴァイオリニストである。10月10日、大会主催の八王子コンサートでもステキな音色で、観客を魅了した。

引き続き劉薇さんに講演をお願いした。

劉薇さんの出身は、甘粛省の省都である蘭州。医師で音楽が好きな父の影響で、7歳頃からヴァイオリンを学んだ。文化大革命の最中、西洋の楽器であるヴァイオリンを入手するのは困難だったが、知人から譲り受け、子ども用に小さく改造して使っていた。

レッスンのために3時間かけて列車で通い、父の手書きの楽譜で練習した。手書きの楽譜の大学ノートは、約30冊にもなる。こうして、西洋文化が禁止された文革下で、父娘2人3脚でヴァイオリニストへの道を切り開いてきた。

文革が終わり、20世紀最高のヴァイオリニストと評されるアイザック・スターンが、1979年中国政府の招きで中国を訪問し、各地で演奏を行いヴァイオリンを指導した。彼の来訪のニュースを聞いた父は、「アイザック・スターンが北京に来るよ。絶対に演奏会に行こう!」と興奮して診療所から駆け出してきた。アイザック・スターンの中国演奏旅行は、「毛



沢東からモーツァルトへ」と題するドキュメンタリー映画になっている。彼女は日本に来て映画を観て、当時の衝撃と喜びを思い出し涙を流した。

1984年西安音楽学院を卒業後、1986年からの留学生活は厳しいものだった。言葉や経済的な苦勞を抱え、一度は中国に帰った。しかし、もう一度やり直そうと大学の寮を出て小さなアパートに移り、何もない生活から再出発をした。ヴァイオリンを子どもたちに教え、飲食店でのアルバイトをしながら、東京芸術大学大学院に入り直した。中国音楽の近代化に貢献した作曲家・ヴァイオリニストである馬思聰(1912~87)の研究によって、演奏分野では数少ない音楽博士の学位を芸大から1999年に授与された。

苦難の文革時代と困難な日本での生活を克服して、ヴァイオリニストへの夢を実現した劉薇さんの奏でるヴァイオリンの音色は、優しく力強い。

劉薇さんの生きてきた道は、「人間は、人生の苦勞や障害をきり抜ける力を持っている」という、私たちへの励ましである。劉薇さんの更なる活躍を祈りたい。
(文責 井上睦子)

10・10 劉薇ヴァイオリンコンサート

八王子市学園都市文化ふれあい財団の助成を得て開催した「劉薇ヴァイオリンコンサート」は、満席で大変好評でした。

劉薇さんは、「この日は雨で湿気がひどく、手に負担を感じていたが、皆さんの成功させようとする努力が私にも伝わってきて、演奏は頑張った。盛り上がったこと。CD完売で嬉しかった。チャルダッシュをこれまでCD録音や本番で数え切れない回数弾いてきたが、この日この曲の演奏後、舞台上でピアノの椎野伸一さんひとこと、すごかったと笑顔で評価。」と、ご自身のブログで書いておられます。

参加者からは「経済も政治も大変な時期に、賢沢な時間を過ごしました。」「悲しい時には悲しい曲を聴く、という劉薇さんに共感しました。」との声が寄せられました。チケット販売にご協力いただいた皆様、協賛していただいた企業の皆様、本当にありがとうございました。収益は四川大地震救援プロジェクトに充てました。



- 5月 8日 胡錦濤国家主席来日歓迎レセプション参加
- 5月14日 中国福利会成立70周年記念会に祝電
- 5月15日 四川大地震被災に対して見舞状発信：中国宋慶齡基金会、上海宋慶齡基金会、駐日中国大使館宛
- 5月19日 第54回事務局会議：中国講座準備
- 5月24日 第12回JCC中国講座：朱建栄氏「北京オリンピック前の中国」
- 5月29日 緊急事務局会議：四川大地震緊急募金開始
- 6月21日 第55回事務局会議：四川大地震被災児童救援プロジェクト関係
- 7月 1日～ 劉薇ヴァイオリンコンサート協賛依頼・チケット販売等準備活動
- 7月 6日 八王子市日中友好協会総会出席
- 7月19日 第56回事務局会議：日中友好平和条約締結30周年記念「孫文と梅屋庄吉史料展示会」に対する協力の件
上海市对外友好協会・上海孫中山故居紀念館取材団に招聘状発送
- 8月 8日～ 上海訪日取材団の訪問先に協力依頼：小坂家・宮崎家・外務省外交資料館・財団法人東洋文庫
- 8月31日 上海市人民对外友好協会・孫中山故居紀念館訪日取材団来日：宋慶齡基金会JCC歓迎夕食会
- 9月 1日 取材団、小坂家・外務省外交資料館取材／小坂家歓迎夕食会
- 9月 2日 取材団、小坂家取材
- 9月 3日 取材団、宮崎家訪問／取材団、熊本県へ移動、5日帰国
- 9月 6日 第57回事務局会議：ヴァイオリンコンサート準備他

- 9月20日 劉薇ヴァイオリンコンサート準備会
- 9月26日 上海宋慶齡基金会に四川大地震支援プロジェクトの相談、資料依頼
- 9月30日 実践女子学園高校の学園祭に宋慶齡関係資料を提供展
- 10月10日 「劉薇ヴァイオリンコンサート」(八王子市芸術文化会館)
- 10月18日 第58回事務局会議：四川大地震緊急プロジェクト、上海訪問他
- 11月 1日 第20回理事会：上半期の事業・財務報告他
- 11月 8日 第13回JCC中国講座：劉薇氏「文化大革命を生き抜いた父の愛とヴァイオリンと私」
- 11月10日 「孫文と梅屋庄吉文物史料展示会」の後援団体として上海人民对外友好協会より招待され、上海訪問：諏訪代表、井上副代表、久保田理事：上海对外友好協会歓迎宴
- 11月11日 「孫文と梅屋庄吉史料展示会」開幕式に参加
- 11月12日 孫文生誕142周年記念行事に参加／上海市立五原幼稚園参観・教育委員会基礎教育関係者と懇談／上海宋慶齡基金会との間で四川大地震被災児童支援「移動少年宮」・図書セット寄贈実施に関する覚書を交換、目録贈呈
- 11月13日 代表団、青浦に新設の中国福利会養老院を参観／帰国
- 11月16日 日本華人教授会シンポジウム参加
- 11月17日 四川大地震救援プロジェクト基金165万円送金：移動少年宮車輛150万円、図書セット15万円
- 11月29日 第59回事務局会議：第21回理事会議案等
- 12月14日 第21回理事会：2009年度事業計画・予算案等について
- 12月25日 「為了明天」第16号発行

JCC中国講座 第14回 予告

日時：09年5月23日(土) 14:00～16:00

場所：未定 参加費：500円

講師：莫邦富さん
(モー・パンフ)

作家・ジャーナリスト。1953年、上海生まれ。85年来日。政治経済から社会文化にいたる分野で発言を続け、「蛇頭」「日中はなぜわかり合えないのか」「新華僑」などの著書がある。朝日新聞に毎週土曜日beにコラム連載中。

主催：NPO法人宋慶齡基金会日中共同プロジェクト委員会 問合せ：TEL&FAX 042-646-4210

21世紀の大国中国をどう理解し、どのように付き合えばよいか？

—食の依存と安全などの視点から—

四川大地震救援募金へのご協力ありがとうございました。 5月12日発生した四川大地震に引き続き貧困地区への支援にご寄付をお願いします。対する救援募金に、1団体・214名の方から1,313,800円のご寄付を頂きありがとうございました。ご寄付は、「四川大地震救援緊急プロジェクト・移動少年宮」の車輛購入費として、11月12日上海宋慶齡基金会と覚書を交わし、17日送金いたしました。車輛は、上海少年宮の教師たちが四川省都江堰の被災した子どもたちを励ますための文化活動に活用されます。子どもたちの心のケアと教育活動につながることを期待しています。JCCは今後も引き続き、貧困地区の子どもたちの教育支援・母子保健支援を行ってまいります。大変厳しい経済状況ではありますが、皆様のご支援をお願いいたします。

「為了明天」No.16 2008年12月25日発行 題字：周肖 編集：三浦・井上

発行者：NPO法人宋慶齡基金会 日中共同プロジェクト委員会 代表理事 諏訪きぬ 〒192-0904 東京都八王子市市安町1-43-6-206 TEL/FAX 042-646-4210
郵便振替：00170-2-152423三菱東京UFJ銀行八王子支店 (普通) 4731623